

【大学院】

1. 成績評価基準(大学院共通)

成績評価の基準は、原則として次による。

優	100 点より 80 点まで
良	79 点より 70 点まで
可	69 点より 60 点まで
不可	59 点以下

2. 修了認定基準

研究科	課程	専攻	在学期間	修了の要件
工学	修士	機械工学	2年以上	[1]類科目(講義)から12単位以上、[2]類科目(演習)から8単位以上、[3]類科目(研究)から6単位を含んで、合計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び試験に合格すること。
		電気・電子工学		[1]類科目(講義)から10単位以上、[2]類科目(演習)から10単位、[3]類科目(研究)から6単位を含んで、合計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び試験に合格すること。
		建築学		[1]類科目(講義)から10単位以上、[2]類科目(演習)から6単位以上、[3]類科目(研究)から6単位を含んで、合計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び試験に合格すること。
		都市環境デザイン学		[1]類科目(講義)から10単位以上、[2]類科目(演習)から6単位以上、[3]類科目(研究)から6単位を含んで、合計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び試験に合格すること。
	博士後期	材料・環境工学	3年以上	特論および特別講義から4単位以上、輪講から2単位以上、学外研修および特別調査演習から2単位以上を含んで、合計8単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び試験に合格すること。
情報学	修士	情報学	2年以上	[1]類科目(講義)から12単位以上、[2]類科目(演習)から8単位、[3]類科目(研究)から6単位を含んで、合計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び試験に合格すること。

3. 授与学位

研究科	課程	専攻	学位
工学	修士	機械工学	修士(工学)
		電気・電子工学	
		建築学	
		都市環境デザイン学	
	博士後期	材料・環境工学	博士(工学)
情報学	修士	情報学	修士(情報)

4. 学位論文評価基準

学位論文審査における評価基準は、次のように定めている。

(1) 工学研究科修士課程

機械工学専攻

- ①課題設定の明確性
論文の目的が明確で、その意義や重要性が示されていること。
- ②研究方法の妥当性
適切な研究方法が用いられており、その内容に創意工夫があること。
- ③研究領域の理解
先行研究を吟味して研究領域における十分な知識を有し、その領域における自己の研究の位置づけが明確であること。
- ④論旨の明確性
研究目的、研究方法、結果、考察の過程において、その論旨が明確で一貫していること。
- ⑤表現の適切性
論文が体系的に構成されており、適切な表現・表記法によって記述されていること。
- ⑥学術的波及効果
学術的な独創性や重要性があり、社会的要請にも応える可能性を持つこと。

電気・電子工学専攻

- ①研究の課題設定の明確性
研究の問題設定が明確に示され、研究課題の学術的・社会的な意義が的確に述べられていること。
- ②先行研究・参考資料の理解と提示
研究課題の探求に際して先行研究や資料が十分に参照され、論旨を展開する上で適切に言及されていること。
- ③論文の構成・表現・表記法の適切性
論文の内容及び構成・表現に留意し、データが適切かつ正確に処理されていること。
- ④研究方法の妥当性・論旨の適切性
設定した研究テーマに関して、適切な研究方法、調査・論証方法を採用し、それらに即した具体的な分析・考察がなされていること。
- ⑤研究発表のプレゼンテーション能力
当該専門分野の修士論文発表会・審査会において、学術研究に相応しい発表・討論を行い、申請者が自立した研究者として活躍していく能力が認められること。

建築学専攻

- ①課題設定の明確性
明確な問題意識に基づき、建築またはインテリアデザイン分野における課題が提起され、研究の意義や必要性が的確に述べられていること。
- ②論旨の明確性・一貫性
論文の記述が十分かつ適切であり、研究目的、分析、結果、考察、結論の過程において首尾一貫した論理構成になっていること。
- ③研究方法の妥当性
設定した課題に対して、適切な研究方法、調査、または実験方法を採用し、それに則って具体的な分析・考察がなされていること。
- ④得られた成果の学術的または社会的意義
研究成果は課題設定に応える新規性ある知見を導いており、学術的な意義を有していること、又は設計作品は課題設定に応える十分な表現になっており、社会的な意義を有していること。

都市環境デザイン学専攻

- ①課題設定の明確性
明確な問題認識に基づき、研究の意義・必要性が述べられていること。
- ②先行研究の情報収集の適切性
研究主題に関する先行研究の調査が適切に行われていること。
- ③研究方法の適切性
研究主題に対し適切な研究方法を採用していること。

- ④論旨の妥当性
目的から結論までが論理的に構成されていること。
- ⑤表現の適切性
論文の記述（本文・図表など）が適切に表現されていること。
- ⑥研究の貢献
当該研究分野や社会において価値ある成果が含まれていること。

（２）工学研究科博士後期課程

材料・環境工学専攻

- ①課題設定の新規性と明確性
論文の目的がこれまでに無い新規的なものであり、且つ明確であること。
- ②研究方法の妥当性
論文の目的を達成するために適切で創意工夫が十分になされた研究方法が用いられていること。
- ③研究領域の理解
先行研究を幅広く且つ深く俯瞰吟味しており、その領域における自己の研究の位置づけが明確であること。
- ④論旨の明確性
研究目的、研究方法、結果、考察の過程において、その論旨が明確で一貫していること。
- ⑤表現の適切性
論文が体系的に構成されており、適切な表現・表記法によって記述されていること。
- ⑥学術的独創性と社会的重要性
学術的に唯一無比で独創性且つ重要性があり、社会的に大きな貢献が期待される論文であること。

（３）情報学研究科修士課程

情報学専攻 情報システムコース

- ①研究課題設定の適切性
広く情報システム学に照らして研究目的や意義が明確であり、課題設定が適切になされていること。
- ②研究方法の妥当性
研究目的を達成するために、適切な立論や解析が行われていること。
- ③新規性・有用性
先行研究の動向を十分に精査した上で、情報システム学分野での新規性あるいは有用性の視点から当該研究の学術的意義が明確になっていること。
- ④論旨の一貫性
論文構成において、その論旨が明確で一貫性を有すること。
- ⑤論文表現の適切性
学位論文としての体裁が整っており、適切な表現により記述されていること。

情報学専攻 情報デザインコース

- ①研究課題設定の適切性
広く情報デザイン学に照らして研究目的や意義が明確であり、課題設定が適切になされていること。
- ②研究及び制作方法の妥当性
研究目的を達成するために、適切な立論や解析を行った上に研究又は作品制作が行われていること。
- ③新規性・有用性
先行研究の動向を十分に精査した上で、情報デザイン学分野での新規性あるいは有用性の視点から当該研究の学術的意義が明確になっていること。
- ④論旨の一貫性
論文構成において、その論旨が明確で一貫性を有すること。
- ⑤論文又は作品表現の適切性
学位論文又は学位作品としての体裁が整っており、適切な表現により記述されていること。

情報学専攻 経営情報コース

①研究課題設定の適切性

広く経営情報学に照らして研究目的や意義が明確であり、課題設定が適切になされていること。

②研究方法の妥当性

研究目的を達成するために、適切な立論や解析が行われていること。

③新規性・有用性

先行研究の動向を十分に精査した上で、経営情報学分野での新規性あるいは有用性の視点から当該研究の学術的意義が明確になっていること。

④論旨の一貫性

論文構成において、その論旨が明確で一貫性を有すること。

⑤論文表現の適切性

学位論文としての体裁が整っており、適切な表現により記述されていること。